

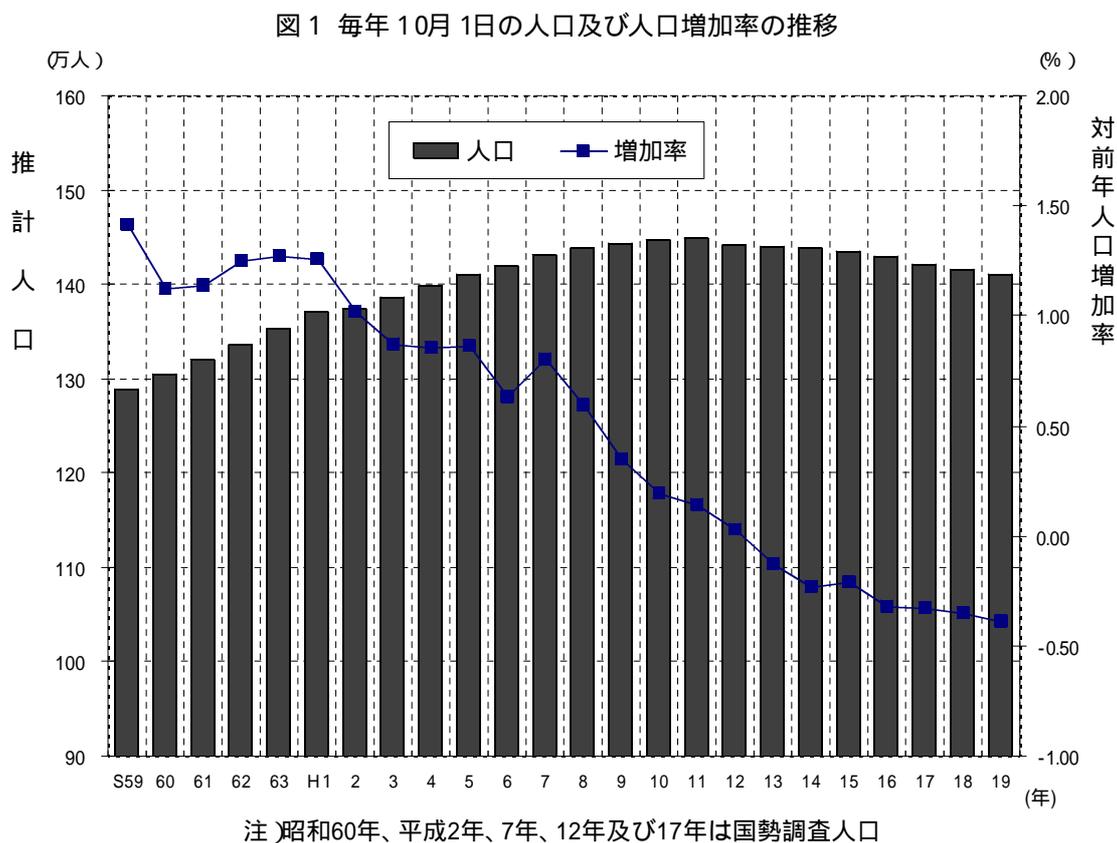
結果の概要

1 人口総数

奈良県の人口は141万人

平成19年10月1日の推計人口による本県の人口は1,410,825人で、全国推計人口(平成19年10月1日現在概算値:1億2,778万人)の約1.1%を占めている。

大正9年の第一回国勢調査の人口は564,607人であり、87年前と比べると約2.5倍になっている。(統計表付表1、40・41頁参照)



市部人口は全体の78.7%を占める

人口の分布状況を市部・郡部別に見ると、市部が1,109,976人、郡部が300,849人で、市部が全体の78.7%を占めている。

市町村別人口規模が大きいのは、奈良市、橿原市、生駒市の順となり、逆に小さいのは、野迫川村、上北山村、黒滝村の順となっている。(統計表第1表、16・17頁参照)

表1 人口規模の市町村順位

順位	大きい市町村			小さい市町村		
	市町村名	人口(人)	構成比%	市町村名	人口(人)	構成比%
1	奈良市	367,581	26.05	野迫川村	699	0.050
2	橿原市	124,631	8.83	上北山村	741	0.053
3	生駒市	115,046	8.15	黒滝村	982	0.07
4	大和郡山市	90,332	6.40	下北山村	1,177	0.08
5	香芝市	72,600	5.15	天川村	1,669	0.12

2 人口動態

1年間の人口増加数は、5,498人、増加率は0.39%

平成18年10月1日からの1年間の人口動態を見ると、5,498人の減少、増加率は0.39%と前年の0.35%に比べ低下している。(統計表第1表、16・17頁参照)

自然増加率は前年を0.01ポイント下回る0.03%に、社会増加率は前年を0.03ポイント下回る0.36%となった。また、外国人増加数は前年の72人減から28人増となった。

人口動態を月別に見ると、自然増加は平成19年8月の120人が最高であり、社会増加は人口移動時期である平成19年4月以外はすべて減少となっている。(表2・3、3・4頁参照)

増加数	5,498人
— 自然増加	435人
出生	11,404人
死亡	11,839人
— 社会増加	5,091人
転入	29,646人
転出	34,737人
— 外国人増加	28人

表2 人口動態

(単位：人)

年次	人口	対前年増加数		自然増加		社会増加		外国人増加
			率%		率%		率%	
昭和61年	1,319,760	14,894	1.14	6,006	0.46	8,875	0.68	13
昭和62年	1,336,256	16,496	1.25	5,749	0.44	10,603	0.80	144
昭和63年	1,353,193	16,937	1.27	5,496	0.41	11,093	0.83	348
平成元年	1,370,135	16,942	1.25	4,946	0.37	11,997	0.89	1
平成2年	1,375,481	13,993	1.02	4,271	0.31	9,295	0.68	427
平成3年	1,387,442	11,961	0.87	4,192	0.30	7,067	0.51	702
平成4年	1,399,276	11,834	0.85	3,956	0.29	7,296	0.53	582
平成5年	1,411,258	11,982	0.86	3,721	0.27	7,994	0.57	267
平成6年	1,420,196	8,938	0.63	3,833	0.27	5,030	0.36	75
平成7年	1,430,862	11,326	0.80	3,561	0.25	7,546	0.53	219
平成8年	1,439,252	8,390	0.59	3,742	0.26	4,480	0.31	168
平成9年	1,444,340	5,088	0.35	3,432	0.24	1,547	0.11	109
平成10年	1,447,134	2,794	0.19	3,501	0.24	876	0.06	169
平成11年	1,449,138	2,004	0.14	2,725	0.19	630	0.04	91
平成12年	1,442,795	475	0.03	2,852	0.20	2,337	0.16	40
平成13年	1,440,920	1,875	0.13	2,590	0.18	4,969	0.34	504
平成14年	1,437,611	3,309	0.23	2,149	0.15	5,380	0.37	78
平成15年	1,434,576	3,035	0.21	1,252	0.09	4,212	0.29	75
平成16年	1,429,969	4,607	0.32	960	0.07	5,698	0.40	131
平成17年	1,421,310	4,740	0.33	359	0.03	4,643	0.32	262
平成18年	1,416,323	4,987	0.35	288	0.02	4,627	0.33	72
平成19年	1,410,825	5,498	0.39	435	0.03	5,091	0.36	28

平成2・7・12・17年の人口は国勢調査確定値であり、増加数(増加率)とは関係しない。

表3 月別人口動態

年 月	増加総数	自然動態			社会動態			外国人 増加
		出生	死亡	自然増加	転入	転出	社会増加	
平成18年 10月	6	1,006	930	76	2,303	2,384	81	11
11月	584	917	1,058	141	1,780	2,163	383	60
12月	101	943	1,040	97	1,990	2,040	50	46
平成19年 1月	537	1,012	1,183	171	1,656	1,995	339	27
2月	1,066	843	1,031	188	1,876	2,706	830	48
3月	1,900	952	1,065	113	5,017	6,893	1,876	89
4月	398	883	942	59	5,223	4,837	386	71
5月	495	994	1,003	9	2,244	2,674	430	56
6月	222	945	854	91	1,716	2,072	356	43
7月	279	984	967	17	2,025	2,307	282	14
8月	392	1,065	945	120	2,156	2,633	477	35
9月	326	860	821	39	1,660	2,033	373	8
計	5,498	11,404	11,839	435	29,646	34,737	5,091	28

図2 月別自然動態

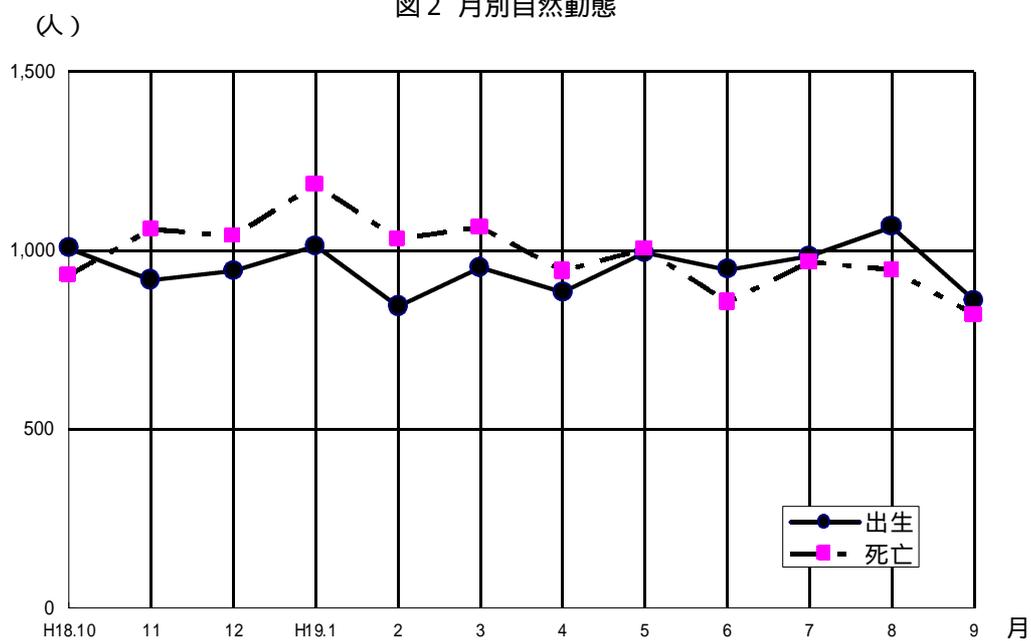
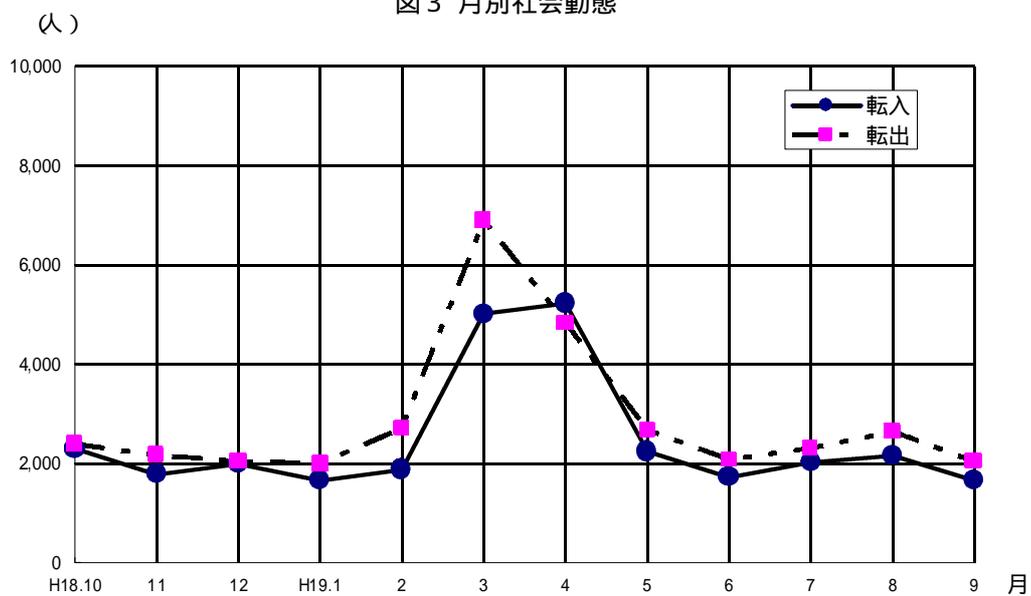


図3 月別社会動態



人口増加数は生駒市が最多で752人

この1年間で人口が増加したのは3市2町、減少したのは9市13町12村であった。

1年間の人口減少数5,498人のうち、市郡部別に見ると、市部が3,236人の減少、郡部が2,262人の減少となった。

また、市町村別にみると、増加数の多いのは生駒市、香芝市、広陵町、減少数の多いのは奈良市、大和郡山市、宇陀市の順となっている。(統計表第1表、16頁参照)

表4 人口増加数の市町村順位

順位	多い市町村		少ない市町村	
	市町村名	増加数(人)	市町村名	増加数(人)
1	生駒市	752	奈良市	1,408
2	香芝市	743	大和郡山市	670
3	広陵町	276	宇陀市	642
4	葛城市	97	御所市	535
5	三郷町	75	五條市	519

人口増加率は香芝市が最高で1.03%

市町村別の人口増加率は香芝市が最も高く、1.03%であった。

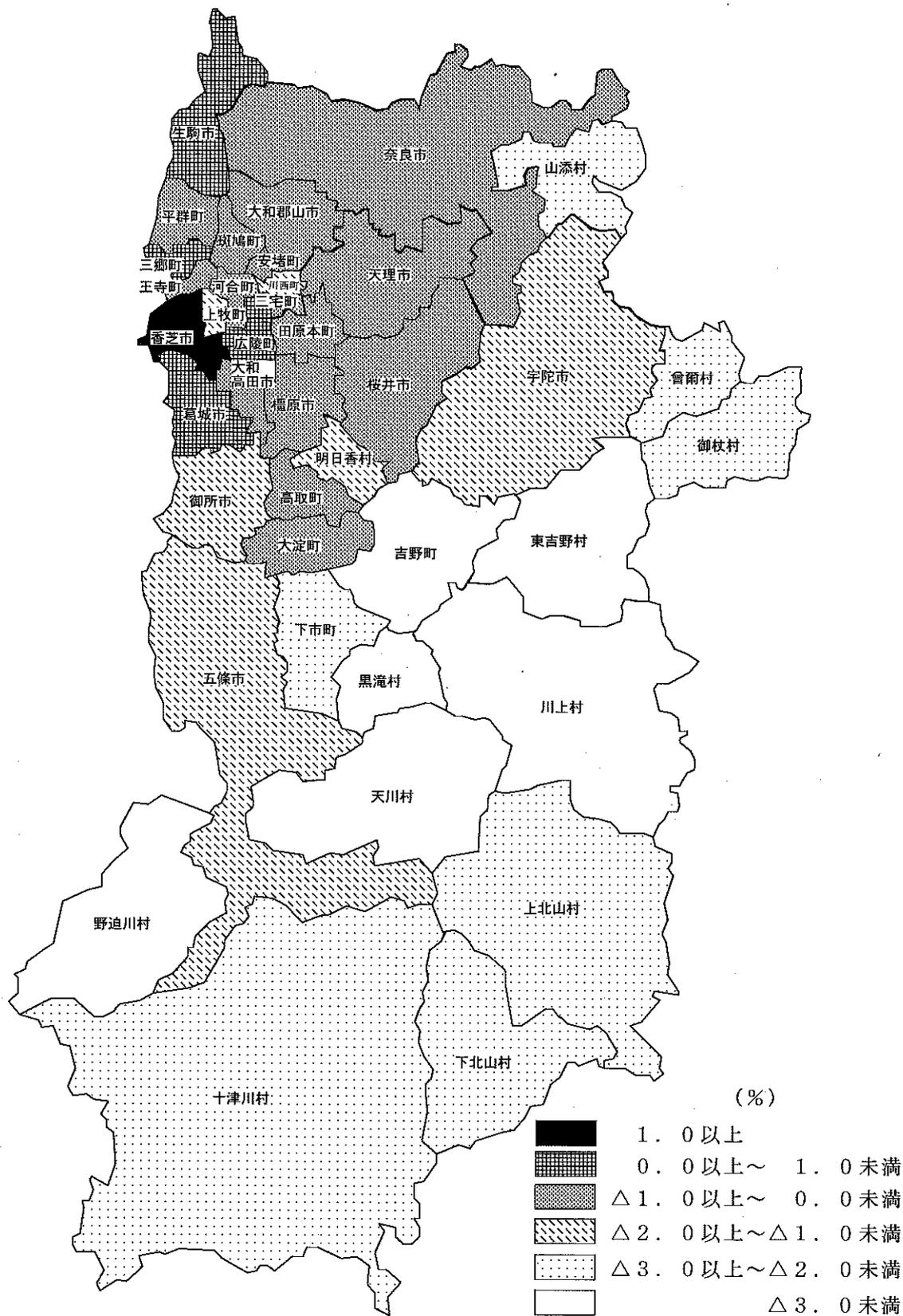
次いで広陵町0.84%、生駒市0.66%となった。

逆に、増加率が最も低いのが川上村 4.96%で、次いで吉野町 3.61%、野迫川村 3.45%の順となっている。(統計表第1表、16・17頁参照)

表5 人口増加率の市町村順位

順位	高い市町村		低い市町村	
	市町村名	増加率(%)	市町村名	増加率(%)
1	香芝市	1.03	川上村	4.96
2	広陵町	0.84	吉野町	3.61
3	生駒市	0.66	野迫川村	3.45
4	三郷町	0.32	東吉野村	3.42
5	葛城市	0.28	黒滝村	3.35

図4 市町村別人口増加率



3 人口密度

県人口密度は382.2人 / Km²

平成19年10月1日の推計人口による本県の人口密度（1平方キロメートル当たり人口）は382.2人であった。市・郡部別では、市部が872.5人、郡部が124.4人となっている。

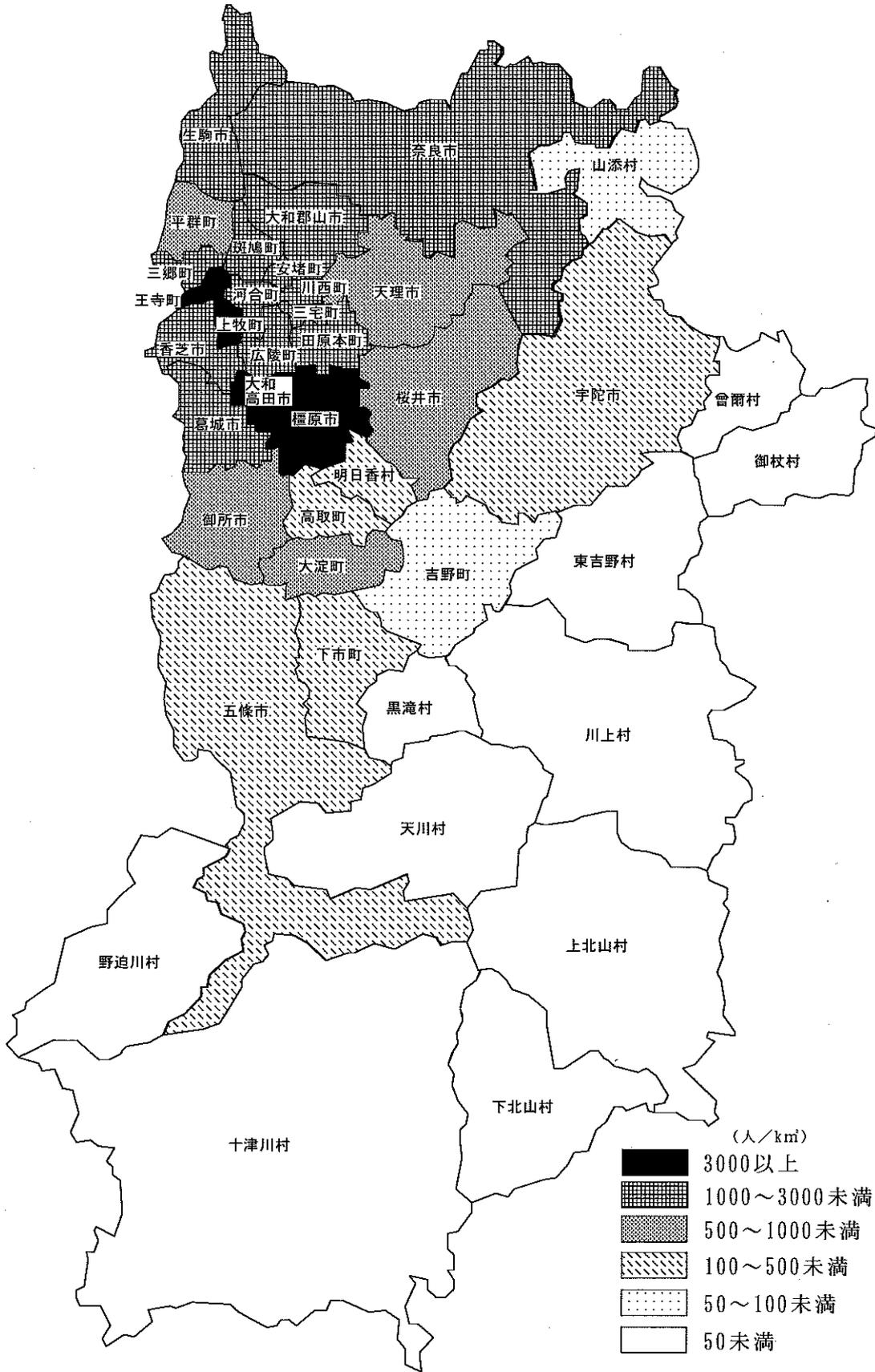
次に、市町村別の人口密度をみると、最も高いのが大和高田市の4,226.1人で、次いで上牧町、王寺町の順となっている。

また、最も低いのは上北山村の2.7人で、最も高い大和高田市の約1,565分の1となっている。（統計表第1表、16・17頁参照）

表6 人口密度市町村順位

順位	高い市町村		低い市町村	
	市町村名	人 / km ²	市町村名	人 / km ²
1	大和高田市	4,226.1	上北山村	2.7
2	上牧町	3,986.2	野迫川村	4.5
3	王寺町	3,217.1	十津川村	6.3
4	檀原市	3,153.6	川上村	6.8
5	香芝市	2,996.3	下北山村	8.8

図5 市町村別人口密度



4 人口性比 (女子 100人に対する男子の数)

県人口の性比は 90.36

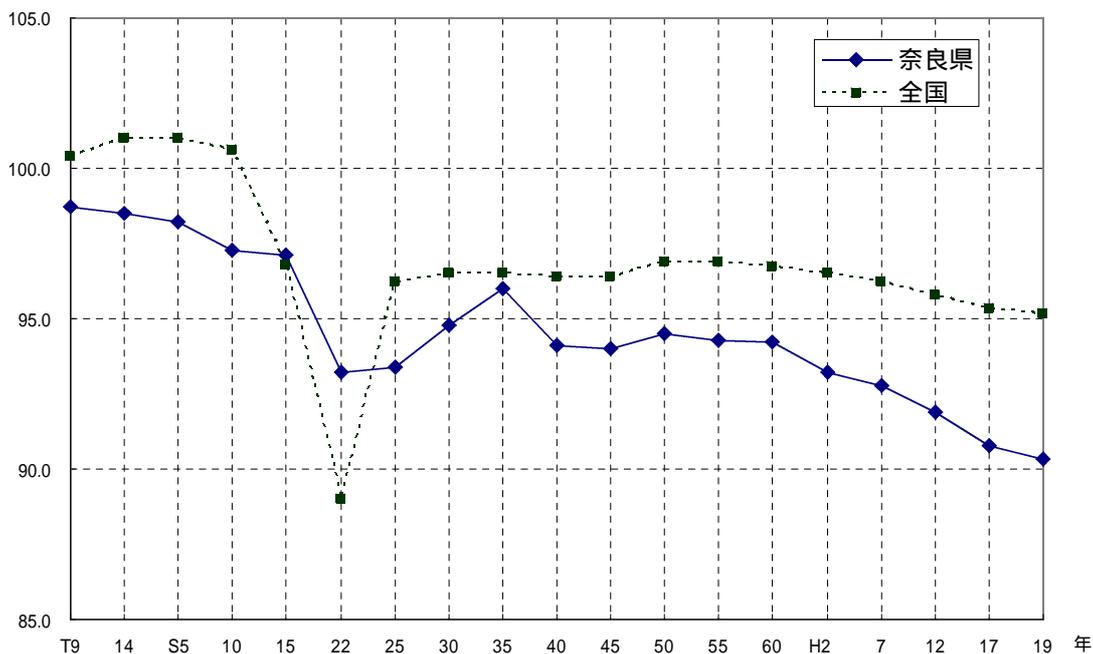
本県の男女別人口は、男子 669,691人、女子 741,134人で、女子の方が 71,443人多く、人口性比は 90.36であった。

人口性比の推移をみると、第 1回国勢調査のあった大正 9年から昭和 10年にかけて、全国では 100を超えていたが、昭和 15年国勢調査以降は 100を割っている。本県は一貫して 100未満であり女子の人口の方が男子より多い。

また、市町村別にみると、野迫川村が最も高く 108.66で、十津川村 106.18、天理市 96.10と続いている。一方、最も低いのは御杖村の 86.73となっている。

(統計表第 1表、16・17頁参照)

図 6 人口性比の推移



平成 19年の全国の数値は、総務省統計局「人口推計月報」(概算値)による。

平成 19年の奈良県の数値は、奈良県推計人口調査による。

それ以外の数値は、国勢調査による。

5 世 帯

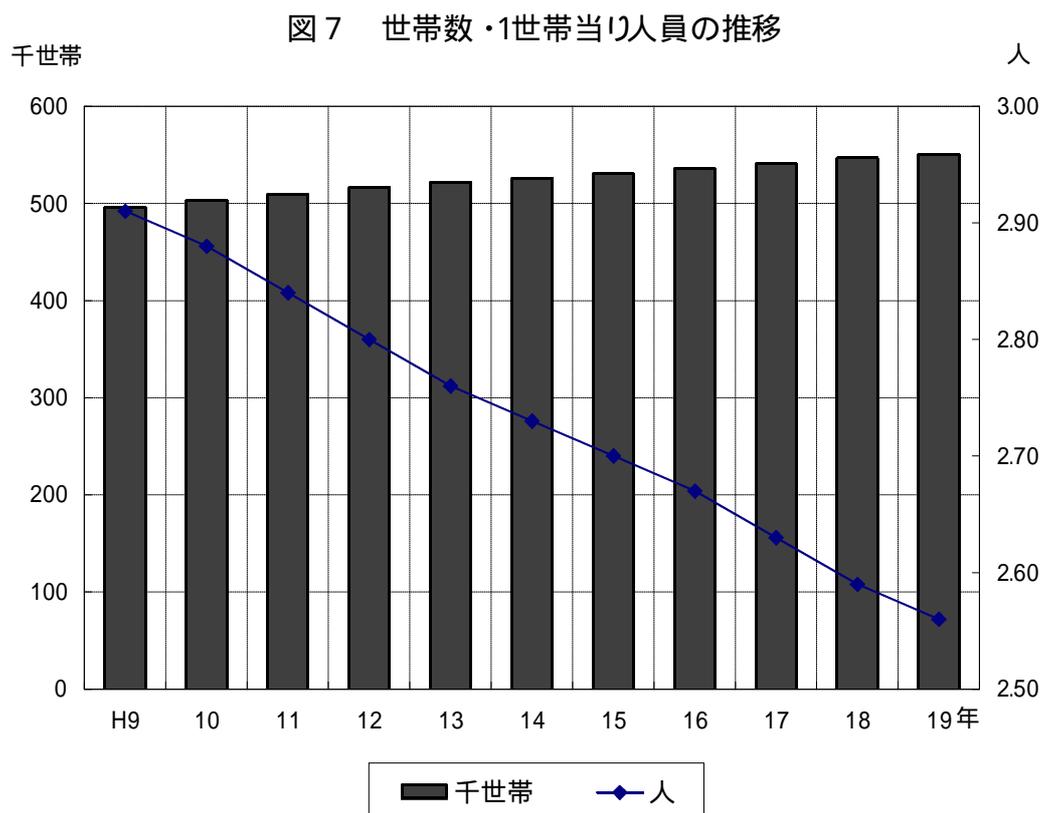
本県の世帯数は55万1千世帯、1世帯当たりの人員は2.56人

平成19年10月1日現在の、本県の住民基本台帳及び外国人登録による世帯数は、551,417世帯で、前年より4,641世帯、率にすると0.85%増加した。

また、1世帯当たりの人員は2.56人で前年より0.03人減少した。

1世帯当たりの人員を市町村別にみると、山添村の3.24人が最も多く、以下広陵町3.06人、明日香村2.88人、葛城市2.821人、田原本町2.818人と続き、逆に最も少ないのは、下北山村の1.78人で、以下川上村1.88人、上北山村2.04人、十津川村2.07人、天川村2.11人と吉野郡に集中している。

(統計表第5表、24頁参照)



6 人口移動(県外)

県外との移動者数は5,091人の転出超過

平成18年10月1日から1年間に県外から転入してきた人は29,646人、県外へ転出した人は34,737人であった。

奈良県では、昭和40年の奈良県推計人口調査が始まって以来転入超過が続いたが、平成10年に初めて転出超過に転じ、平成19年も引き続いて5,091人の転出超過となった。

都道府県別では、高知県の44人を最高に、13の道県からの転入超過となっており、東京都、京都府、愛知県の順に、33の都府県への転出超過となっている。(統計表第8表、30頁参照)

図8 本県と全国ブロック別移動状況

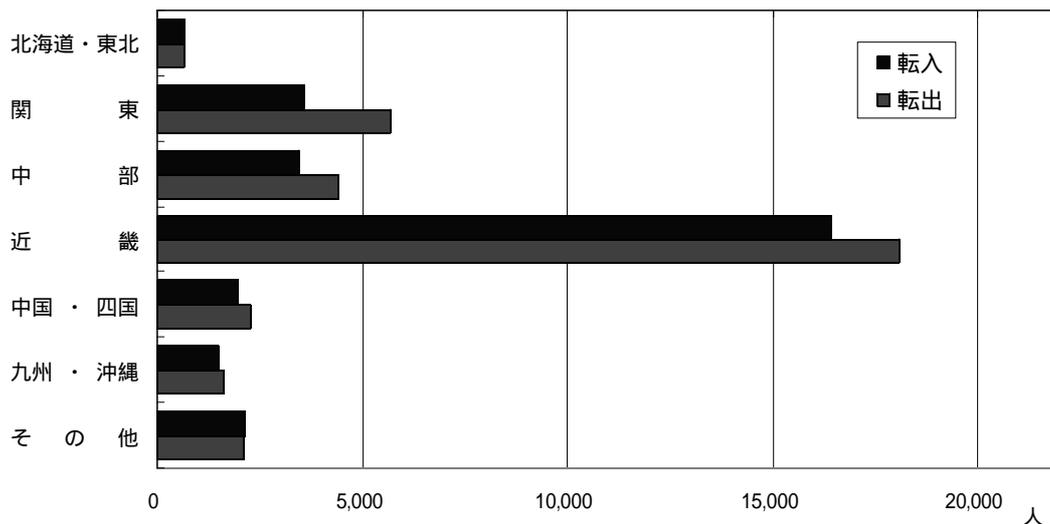


表7 本県と近畿5府県との移動状況

府 県 名	本県への転入		本県からの転出		転入超過数	
	人数	構成比%	人数	構成比%	人数	構成比%
滋 賀 県	518	3.2	739	4.1	221	13.3
京 都 府	2,426	14.8	3,332	18.5	906	54.6
大 阪 府	10,583	64.5	10,629	58.9	46	2.8
兵 庫 県	2,115	12.9	2,569	14.2	454	27.4
和 歌 山 県	754	4.6	786	4.4	32	1.9
計	16,396	100.0	18,055	100.0	1,659	100.0

7 人口移動(県内)

県内市町村間移動者数は21,183人

平成18年10月1日から1年間の県内市町村間の移動者数は21,183人で、前年と比べ815人減少した。

また、市町村間の転入転出者の状況をみると、転入超過は7市6町で、転出超過は5市9町11村であった。転入超過数及び転出超過数の主な状況は、次表のとおりである。

(統計表第6表、25頁参照)

表8 県内市町村間移動の状況

順位	転入超過の市町村		転出超過の市町村	
	市町村名	転入超過数(人)	市町村名	転出超過数(人)
1	広陵町	362	大和高田市	241
2	檀原市	240	宇陀市	194
3	香芝市	213	御所市	190
4	生駒市	145	吉野町	151
5	桜井市	125	大和郡山市、五條市	70

図9 県内市町村間移動者の推移

